

政策番号	1	政策分野	環境
------	---	------	----

基本方針 豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現をめざす。

担当局	環境政策局
-----	-------

共管局	
-----	--

政策の評価

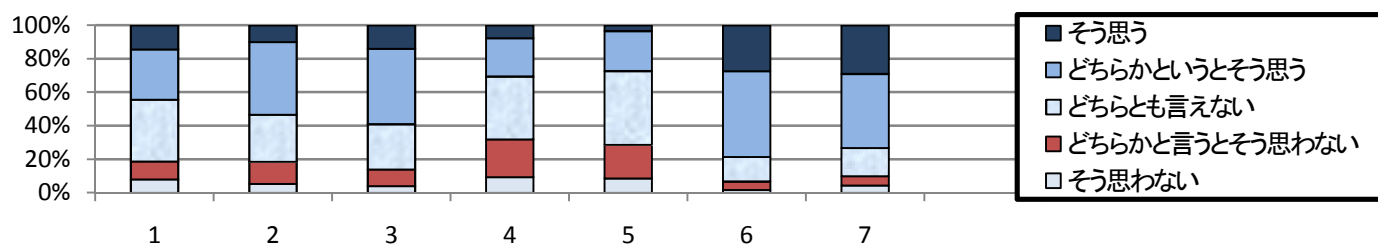
1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年 度	年 度	23年度評価				
					前 回 値	最 新 値	目 標 値	達 成 度	評 価
1 温室効果ガス排出量削減率(1990年度比)(%)	11.6	25	-	-	6	11.6	25	46.4%	d
2 本市が受け入れるごみ量(トン)	49.7万	39万	-	-	53.5万	49.7万※	52.5万	105.3%	a
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価									b

※8月末時点の速報数値から確定値に変更, それに伴い達成度を変更

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年 度	年 度	23 年 度
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	-	-	b
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	-	-	b
3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	-	-	b
4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	-	-	c
5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	-	-	c
6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	-	-	a
7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	-	-	a
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価				b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	4	32.0%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている	年度	-
<p>【客観指標】・温室効果ガス排出量削減率は、10年後(平成32年)までに達成すべき計画目標であることから、d評価にとどまった。しかしながら、前年度と比較すると、原油価格の高騰、金融危機に伴う景気の低迷、暖冬によるエネルギー消費量の減少等により改善している。</p> <p>・本市が受け入れるごみ量は、家庭ごみ有料指定袋制の導入、プラスチック製容器包装の分別収集等の取組を経て、着実に減少し、平成22年度は資源物回収拠点の拡大、業者収集ごみの透明袋使用義務化及び告示産業廃棄物の市施設への受入廃止等を行った結果、a評価となった。</p>		年度	-
<p>【市民の実感】・多数回答を総合すると、ごみ減量・ごみ分別の取組は広く認知され、山紫水明の自然環境は概ねかけがえのないものと実感されている。一方、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用や環境にやさしいライフスタイルへの転換など、比較的近年の取組については、やや浸透が遅れている。</p> <p>【総括】・環境対策は消費行動と関わるため、景気の影響を受け得るが、ごみ減量・ごみ分別の取組など、行政による動機付けの効果も、客観指標及び市民の実感となって現れている。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	-	-	A	55
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	-	-	B	57
0103	ごみを出さない循環型社会の構築	-	-	A	59

<今後の方向性>

・平成20年度に国の「環境モデル都市」(※1)に選定されており、今後は更に「環境未来都市」(※2)への選定を目指していることから、その必須の取組として、再生可能エネルギーや次世代自動車等を組み合わせた、京都市ならではのスマートコミュニティ(※3)を実現していくこととしている。

※1…低炭素社会の実現に向けて高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市

※2…未来に向けた技術、仕組み、サービス、まちづくりでトップクラスの成功例を生み出し、国内外への普及展開を図るために国が創設する制度

※3…情報通信技術を活用してエネルギーを地域内で融通し合うスマートグリッドだけでなく、交通や人々の行動までも最適化することを目指す多様な技術が組み合わさった、社会インフラとしてのシステム

・平成22年度に、更なる低炭素社会の実現を目指して、「京都市地球温暖化対策条例」の全部改正を行い、市内の温室効果ガスの総排出量を2020年度に25%、2030年度に40%削減するという高い目標を設定した。これに伴い、その目標を達成するためのロードマップとして、「京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>」を策定した。今後はこの計画に基づき、「まち」「経済」「暮らし」の3つの観点から、それぞれプロジェクトを推進していくこととしている。

・「京都市循環型社会推進基本計画<2009-2020>」(平成22年3月)に基づき、ごみ量をピーク時の半分以下に減らす最終目標に向けて、包装材の削減推進、事業ごみの減量、イベント等のエコ化の推進、多様な資源ごみの回収の仕組みづくり、バイオマスの活用等に取り組んでいくこととしている。

特に、バイオマスの活用については、「京都市バイオマス活用推進計画」(平成23年3月)を新たに策定し、積極的に取り組んでいくこととしている。

・今後も、京都のまちがもつ市民力・地域力を結集し、京都議定発祥の地として、「DO YOU KYOTO?(環境にいいことしますか?)」を合言葉に、環境にやさしい取組を実践していくこととしている。

政策名	1	環境
指標名	温室効果ガス排出量削減率〈1990年度比〉(%)	
担当部室	地球温暖化対策室	連絡先 222-4555
1 指標の説明		
京都市域からの温室効果ガス（二酸化炭素，メタン等）年間排出量の，1990（平成2）年度比における削減率		
2 指標の意味		3 算出方法・出典等
自然環境を気遣う低炭素社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		{1-対象年度排出量(万t)/1990年度排出量(万t)} × 100
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 11.6	平成32年度目標値 25 根拠 京都市地球温暖化対策条例 京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>
	前回数値 19年度 6	最新数値 20年度 11.6
	推移 5.6ポイント増	単年度目標値 根拠 京都市地球温暖化対策計画に掲げた平成32年度達成目標値
数値	25	達成度 46.4%
	全国順位	中長期目標 根拠 京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>
数値	25%	32年度 達成度
5 評価基準		6 基準説明
最新数値が a: 25%以上 b: 18.75%以上25%未満 c: 12.5%以上18.75%未満 d: 6.25%以上12.5%未満 e: 6.25%未満		地球温暖化対策条例及び京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>に掲げた，平成32年度までの排出量25%減達成（削減率25%以上）をa評価とした。また，0%（平成2年度から全く削減できなかった場合）～25%を等分し，b～eの4段階評価とした。
7 評価結果		
		23
-	-	d
備考 算定に用いるデータの公表時期の関係から，20年度の値が最新となる。		

指標名	本市が受け入れるごみ量（トン）	
担当部室	循環型社会推進部	連絡先 213-4930
1 指標の説明		
本市が1年間に受け入れるごみの量		
2 指標の意味		3 算出方法・出典等
循環型社会の構築に向けた進捗状況を示す指標		出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 49.7万	平成32年度目標値 39万 根拠 京都市循環型社会推進基本計画<2009-2020>
	前回数値 21年度 53.5万	最新数値 22年度 49.7万*
	推移 3.8万トン減	単年度目標値 根拠 平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値
数値	52.5万	達成度 105.3%
	全国順位	中長期目標 根拠
数値		
5 評価基準		6 基準説明
最新値－目標値が， a: 0トン以下 b: 0トン超～1.6万トン以下 c: 1.6万トン超～3.2万トン以下 d: 3.2万トン超～4.9万トン以下 e: 4.9万トン超		当年度の目標値（52.5万トン）を達成した場合をa，京都市循環型社会推進基本計画<2009-2020>の基準年度（平成20年度）のごみ量（57.4万トン）を超えた場合をeとし，b～dは等間隔（1.6万トン間隔）で基準を設定
7 評価結果		
		23
-	-	a
備考 ※8月末時点の速報数値から確定値に変更，それに伴い推移及び達成度を変更		